



平成21年8月18日

## 子どもの徳育に関する懇談会「審議の概要」に対する意見

子どもたちが地域社会の中で、直接的・具体的な体験を通して生きる力を身につけていくことの困難さが指摘されるようになってから久しい。子育ての難しさに悩む保護者も多く、子どもたちに如何して豊かな心をはぐくむかは喫緊の課題となっている。この現状を打開するため、学校が家庭や地域と連携して「社会総がかりによる徳育の推進」することが重要であり、期待するところである。

本会は、これまでも子どもたちの心をはぐくむ取組を家庭と連携して推進しているが、「審議の概要」に示されている幼児期からの徳育の重要性について、改めて果たすべき役割を認識している。

しかし、ここに示されている方策が実効性のあるものとなるためには、幼稚園・学校の教育活動はもとより、社会全体の人間としての生き方にかかわる通念の一大変革、すなわち競争原理偏重による社会・経済の発展に価値観を置くのではなく、生活・文化の豊かさに視点を置いた人間らしい生き方への転換が求められる。本審議によってなされる提言が、単に提言に終わることなく、社会構造の変革に有効に機能する国民運動に発展することを願い、以下に全国国公立幼稚園長会としての意見を述べる。

### I 「1 徳育の意義・普遍性」から 「3 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」までについて

- 徳育の意義については、「自己と向き合い」「志」を持ち続けることの重要性について分かりやすく解説されており、参考となる。とくに、P4に示されているように、学習指導要領において「道徳」で求められている4つの視点が、「知ること・判断すること・信じていること・感じることを通じて、行うことにつながるものでなければならない」と示されていることは意義深いと考える。
- このことは、本「審議の概要」にも言えることであり、「徳育の推進」について、本概要によって、知ること・判断すること・信じていること・感じることを通じて、是非、ここで示される

提言が、実現につながる力をもつものであってほしいと願う。

- 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題については、発達段階が的確に捉えられており、保護者にとってもそれぞれの役割が分かりやすいものとする。

## Ⅱ 「4 子どもの徳育の充実に向けて」について

- 徳育の充実に向けて、具体的な方策が発達段階に応じて示され、体験を通して身に付けていくことの大切さが示されている点は、評価できる。
- しかし、P16の「提言2 家庭教育の支援とワーク・ライフ・バランスの推進を図ること」について、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた具体的な内容がほとんど示されていない。
- 家庭の実態を見てみると、徳育の充実の重要性を認識し、考えられる限りの努力をしようとしているが、家族の就労状況によって家族の時間を十分確保できない家庭が多い。経済発展重視の社会の中で、家庭生活を重視したくても職場重視の生活をせざるを得ない現実がある。
- 家庭を中心に社会全体で徳育を推進するに当たっては、家庭の生活を充実させるための十分な時間が保障されなければならない。これまでも内閣府を中心としてワーク・ライフ・バランスの概念は繰り返し提示されているが、その実現に向けた社会への働きかけは、提言から進んでいない。
- 「社会総がかりの徳育の推進」の鍵は、「知ること・信じること・感じること」は十分な段階にきており、「行うこと」につながる社会構造の実現こそが望まれる。
- そこで、このことに十分紙幅をさいて、実現につながる有効な提言をしていただきたい。

## Ⅲ その他

- 表記の問題であるが、「審議の概要」（概要）の2-⑤及びP.14の⑤に記載されている「自己達成感の育成」という表現について、「育成」という言葉はなじまないとする。
- 本報告に示されていることは、いずれも重要なことと認識しており、本会は、今後も積極的に子どもの徳育の推進に寄与していきたい。